



清掃・除菌のワンポイントアド バイス

「ウィー・ラブ・ビルメン！」事務局
(後援:全国ビルメンテナンス協会)

「うつらない。うつさない。」

「ウィー・ラブ・ビルメン！」事務局
(後援:全国ビルメンテナンス協会)

局(後援:全国ビルメンテナンス協会)による感染経路を絶つための清掃・除菌の
出前講座が昨年末、行われました。その講座の中から抜粋した清掃・除菌の仕方を紹介します。

新型コロナウイルス感染は感染の元となるもの(感染源)感染経路、感染する人の三つの要素がないと起きません。病原体を広げる感染経路を取り除くことが大事です。

新型コロナウイルスの感染経路は、飛沫を吸い込んで感染する飛沫感染と接触感染があります。

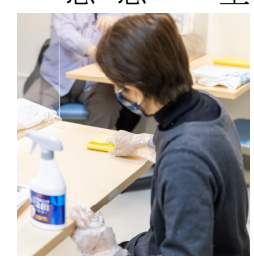
接触感染は感染者が咳やくしゃみをした際に手で触ったり、ウイルスが飛散しテーブルに付着します。別の人がそのテーブルなどに触り、手にウイルスが付着します。その手で口、目、鼻などに触ることでウイルスが侵入します。

人は一日に50〜144回顔に触ると言われます。歯磨きの際に蛇口にウイルスが付着し感染が拡大した事例もありました。

「手の触れる部分を想像して」

複数の人が触れる部分が感染率が高い人が触りそうな所を重点的に除菌清掃します。

ウイルス量を減らし感染力を弱めることが感染リスクを下げます。



消毒作業には感染しないために手指消毒を行いマスク、手袋を着用し、雑巾に飛散しないように除菌の洗剤などをつけます。

手指消毒には、石鹸と流水による石鹸消毒とアルコール消毒があります。

正しいアルコール消毒は、先ず片手の手のひらにアルコールを溜めて反対の指先を液に浸します。その後、逆側の手のひらに液を移し、逆側の指先を浸します。両手をこすりあわせ、必ず乾くまでこすりまわります。濡れている間は消毒は完了していません。

「消毒の原則として噴霧は禁止です。」消毒薬自体は決して安全ではありません。細菌、ウイルスは細胞でできています。消毒薬はその細胞の一部分を破壊することで殺菌し、不活性化します。噴霧すると吸い込んでしまう危険性があります。中国で希釈しない次亜塩素酸ナトリウムを噴霧して肺炎になった人がいます。厚生労働省では噴霧は推奨していません。

「二方向に拭く」

テーブルの天板は手のサイズの大さきの雑巾に、手の小指側の横をしつかり押し付けて一方向に拭きます。左右に往復して拭くとウイルスが残ります。また、天板の裏やサイドも同様に一方向に拭きます。

イスは背もたれ、ひじ掛け、座面前方、座面の横を同じように一方向に拭きます。使った雑巾は普通に洗剤で洗って使って頂きます。



早朝から深夜まで毎日ひたむきに清掃消毒・除菌作業を行い、新型コロナウイルスの不活性化に取り組むビルメンテナンステナンス従事者の方がいます。この方たちがいるからこそ、私たちの地域の衛生は保たれています。

「清掃員さん、ありがとうございます。ウィー・ラブ・ビルメン！」
ホームページ
http://wlbm.net/をご覧ください。



「清掃員さん、ありがとうございます。ウィー・ラブ・ビルメン！」
キャンペーンプロジェクト実行委員会
<https://www.youtube.com/watch?v=aH2EkwTcorg>